

キャリアセミナー（職業能力開発）

【テーマ】 もっと知恵を。災害に強い社会を築くために

【日 時】 平成 24 年 10 月 4 日

【講 師】 田中哮義さん（前京都大学防災研究所教授）

\*\*\*\*\*

【感 想】

●現在の防災体制が構築されてきた歴史的経緯がわかった。阪神・淡路大震災や東日本大震災以降、自然災害にどう備え、どう共生できるかが注目されがちだが、戦災をはじめとした人災も併せて「防災」である、という視点を持つておくことが必要だと感じた。建築基準の策定にコストが考慮されているという話があったが、経済的コストだけではなく、物質的・人的コストについても注視する必要があると思った。

●過去の災害に関するさまざまな基礎知識を学べて良かった。ただ、それを今後の災害克服にどのようにつなげていくかについて、もう少し重点的に知りたかった。放射線被曝についての正しい知識を身につける重要性は私も常々感じているが、もっと専門家が声を大にして一般に伝えていく機会があればいいのと思う。

●できあがった街を技術の進歩に合わせてアップデートし、つくりかえていくためには費用も時間も膨大にかかるだろうが、それでも取り組む努力が災害に強い社会づくりにつながると思う。「風評被害が人を殺す」という言葉が印象に残った。自分の考え、それに基づいた行動に責任をしっかりともちたいと改めて思った。

●日本は地勢的、地形的に自然災害を最も受けやすいという新たな知見を得た。「既存の分野の枠を超えた連携による防災技術開発を行うべきだと強く思った。昔と比べて技術、科学が進化する中でさまざまな研究を重ね合わせて、新たな対策を練っていくことが、この先近い将来に求められることだと分かった。